

平成21年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成20年11月13日

上場会社名 浜井産業株式会社
 コード番号 6131 URL <http://www.hamai.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 忠
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理部長 (氏名) 山畑 喜義
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日 配当支払開始予定日 平成20年12月8日

上場取引所 東

TEL 03-3491-0131

平成20年12月8日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	5,880	—	493	—	453	—	246	—
20年3月期第2四半期	5,082	△16.7	637	△30.0	589	△27.9	483	18.1

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	7.57	—	—	—
20年3月期第2四半期	14.86	—	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第2四半期	11,926	3,422	3,422	28.7	105.23			
20年3月期	13,139	3,318	3,318	25.3	101.99			

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 3,422百万円 20年3月期 3,318百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	3.50	—	3.50	7.00
21年3月期	—	3.50	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	2.00	5.50

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	△14.5	650	△49.3	560	△48.4	310	△59.3	9.53

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、3～4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

[(注)詳細は、3～4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 32,624,000株 20年3月期 32,624,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 100,672株 20年3月期 90,828株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年3月期第2四半期 32,529,523株 20年3月期第2四半期 32,551,449株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.平成20年5月14日に公表いたしました業績予想は、通期について修正しております。詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2.上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

3.当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期累計期間におけるわが国経済は、原油、原材料価格の高騰が企業収益を圧迫し、さらに米国のサブプライムローン問題に端を発した「金融システムの混乱が、今後、消費、輸出の減退を通じて実体経済へ影響を及ぼしかねないのでは」という景気の減速懸念が、一段と高まってまいりました。

当工作機械業界におきましても、受注環境は、高水準ながら上記景気減速懸念を受け、設備投資に慎重姿勢の企業が増えつつあり、先行き不透明感が増してきております。

このような経営環境下、当社は、主要顧客でありますハイテク関連業界への販売強化をはかり、経営成績は、下記のようになりました。

(1) ラップ盤

300 ミリ径半導体シリコンウエーハ向につきましても、ウエーハ各メーカーの生産が調整局面に入り、設備投資需要は減少したものの、デジタル家電向各種ガラス基板増産のための設備投資は、引き続き旺盛で、売上高は 4,145 百万円となりました。

(2) ホブ盤、フライス盤、レンズ加工機

フライス盤につきましても、昨年同時期の売上は確保したものの、レンズ加工機の設備投資需要はやや減少傾向にあり、ホブ盤は、アジア地域での売上に国内の新規需要売上が加わりましたが、海外顧客、特に中国での金融引き締め等の影響もあり、売上高は 567 百万円となりました。

(3) CMP・CMG

半導体メーカーの生産調整、設備投資抑制の動きの影響により、売上高は 221 百万円となりました。

(4) 部品、歯車

有力顧客への消耗部品販売に、品質向上のための改良品販売等が加わり、売上は堅調に推移しましたが、大型ラップ盤に関連した消耗部品販売が若干減少し、売上高は 946 百万円となりました。

以上の結果、当第 2 四半期累計期間の経営成績につきましても、受注高は 4,125 百万円、売上高は 5,880 百万円、営業利益は 493 百万円、経常利益は 453 百万円、四半期純利益は 246 百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状況

当第 2 四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末比 1,213 百万円(9.2%)減少して、11,926 百万円となりました。流動資産は同 1,277 百万円(14.2%)減少の 7,706 百万円、固定資産は同 64 百万円(1.5%)増加の 4,220 百万円となりました。

流動資産減少の主な要因は、売上債権の減少によるものであります。

固定資産のうち有形固定資産は、同 74 百万円(2.1%)増加の 3,723 百万円となりました。この増加の主な要因は、設備投資によるものであります。投資その他の資産は、同 10 百万円(2.1%)減少の 495 百万円となりました。この減少の主な要因は、時価評価に伴う投資有価証券の減少によるものであります。

当第 2 四半期会計期間末における負債は、前事業年度末比 1,317 百万円(13.4%)減少して、8,504 百万円となりました。流動負債は同 2,480 百万円(29.7%)減少の 5,873 百万円、固定負債は同 1,163 百万円(79.3%)増加の 2,630 百万円となりました。

流動負債減少の主な要因は、1 年内返済予定の長期借入金の減少によるものであります。

固定負債増加の主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

なお、借入金(短期借入金及び長期借入金の合計額)は、同 1,005 百万円(27.3%)減少の 2,682 百万円となりました。

当第 2 四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末比 104 百万円(3.1%)増加して、3,422 百万円となりました。

純資産増加の主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前事業年度末の 25.3%から 28.7%となりました。1 株当たり純資産額は、同 101.99 円から 105.23 円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度

末に比べ 100 百万円減少し、当第 2 四半期会計期間末には、1,348 百万円となりました。

当第 2 四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
 営業活動の結果得られた資金は 1,074 百万円となりました。
 収入の主な内訳は、売上債権の減少額 1,305 百万円、税引前四半期純利益 453 百万円であり、
 支出の主な内訳は、仕入債務の減少額 507 百万円であります。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
 投資活動の結果支出した資金は 57 百万円となりました。
 これは、主に有形固定資産の取得による支出 52 百万円であります。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
 財務活動の結果減少した資金は 1,119 百万円となりました。
 これは、主に借入金の返済による支出であります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当社の主要な顧客であります半導体シリコンウエーハ向を中心に、顧客企業の設備投資計画の先送り等受注環境の悪化とサブプライムローン問題に端を発する金融システムの混乱、および米国発の世界的な景気の後退や先行きへの不透明感から、受注環境の回復までには若干の時間を要する見込みであり、売上高を修正しております。

また、利益面につきましても、経費削減等のコスト削減努力は継続しておりますが、原油高を背景とした原材料価格の高騰および売上高の減少による影響を吸収するには至らず、当初の予想を下回る見込みとなりました。

これらの結果、通期の業績予想につきましては、平成 20 年 5 月 14 日公表の予想よりも下方修正を行い、売上高は 10,000 百万円 (前期比 14.5%減)、営業利益は 650 百万円 (前期比 49.3%減)、経常利益は 560 百万円 (前期比 48.4%減)、当期純利益は 310 百万円 (前期比 59.3%減) を見込んでおります。

詳細につきましては本日発表の「通期業績予想および期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

- ① 棚卸資産の評価方法
 棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
- ② 固定資産の減価償却費の算定方法
 定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成 19 年 3 月 14 日 企業会計基準第 12 号) 及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成 19 年 3 月 14 日 企業会計基準適用指針第 14 号) を第 1 四半期会計期間から適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。
- ② 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成 18 年 7 月 5 日 企業会計基準第 9 号) を第 1 四半期会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) に変更しております。
 これにより当第 2 四半期累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は、それぞれ 66,614 千円減少しております。
- ③ 「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成 5 年 6 月 17 日 最終改正平成 19 年 3 月 30 日 企業会計基準第 13 号) 及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成 6 年 1 月 18 日 最終改正平成 19 年 3 月 30 日 企業会計基準適用指針第 16 号) を第 1 四半期会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

ただし、当第2四半期累計期間において少額リース資産を除く新たな所有権移転外ファイナンス・リース取引が発生しなかったため、損益に与える影響はありません。

なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

④ 追加情報

(有形固定資産の耐用年数の変更)

生産用機械及び装置の耐用年数については、第1四半期会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、耐用年数を10年から9年に変更しております。これによる当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

5. 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,348,355	1,449,081
受取手形及び売掛金	3,612,529	4,917,980
製品	—	278,252
原材料	103,627	90,435
仕掛品	2,374,797	2,030,502
その他	287,519	235,674
貸倒引当金	△20,812	△18,771
流動資産合計	7,706,016	8,983,156
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,072,326	1,081,470
土地	2,276,497	2,258,479
その他(純額)	374,714	308,685
有形固定資産合計	3,723,539	3,648,635
無形固定資産	1,936	1,936
投資その他の資産		
投資有価証券	192,913	242,359
その他	314,138	275,318
貸倒引当金	△11,593	△11,415
投資その他の資産合計	495,458	506,263
固定資産合計	4,220,934	4,156,835
資産合計	11,926,951	13,139,991

(単位：千円)

	当第 2 四半期会計期間末 (平成 20 年 9 月 30 日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成 20 年 3 月 31 日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,281,906	4,789,725
短期借入金	717,000	717,000
1 年内返済予定の長期借入金	110,000	2,260,000
未払法人税等	247,665	79,435
その他	517,190	508,303
流動負債合計	5,873,761	8,354,464
固定負債		
長期借入金	1,855,000	710,000
退職給付引当金	511,064	493,041
その他	264,592	264,294
固定負債合計	2,630,656	1,467,335
負債合計	8,504,418	9,821,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,050,186	2,050,186
利益剰余金	1,439,660	1,307,433
自己株式	△18,075	△16,534
株主資本合計	3,471,771	3,341,085
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△39,809	△10,877
繰延ヘッジ損益	△9,428	△12,016
評価・換算差額等合計	△49,238	△22,893
純資産合計	3,422,532	3,318,191
負債純資産合計	11,926,951	13,139,991

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	5,880,467
売上原価	4,833,211
売上総利益	1,047,255
販売費及び一般管理費	
販売手数料	20,165
荷造運搬費	129,939
役員報酬	62,472
従業員給料	75,064
従業員賞与	32,012
退職給付費用	8,278
その他	225,868
販売費及び一般管理費合計	553,802
営業利益	493,453
営業外収益	
受取利息	836
受取配当金	1,916
為替差益	7,740
不動産賃貸料	3,637
物品売却益	6,401
その他	5,597
営業外収益合計	26,129
営業外費用	
支払利息	33,849
支払手数料	28,551
その他	3,451
営業外費用合計	65,852
経常利益	453,730
特別利益	
固定資産売却益	110
特別利益合計	110
特別損失	
固定資産除却損	6
特別損失合計	6
税引前四半期純利益	453,834
法人税、住民税及び事業税	240,613
法人税等調整額	△32,871
法人税等合計	207,741
四半期純利益	246,092

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	453,834
減価償却費	90,231
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,219
退職給付引当金の増減額(△は減少)	18,022
受取利息及び受取配当金	△2,752
支払利息	33,849
支払手数料	28,551
為替差損益(△は益)	△1,413
固定資産売却損益(△は益)	△110
固定資産除却損	6
売上債権の増減額(△は増加)	1,305,451
たな卸資産の増減額(△は増加)	△79,752
仕入債務の増減額(△は減少)	△507,819
その他	△133,449
小計	1,206,869
利息及び配当金の受取額	2,752
利息の支払額	△33,846
法人税等の支払額	△74,088
その他の支出	△27,218
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,074,469
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△52,814
有形固定資産の売却による収入	300
投資有価証券の取得による支出	△198
短期貸付けによる支出	△1,070
短期貸付金の回収による収入	1,528
その他	△4,849
投資活動によるキャッシュ・フロー	△57,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	320,000
短期借入金の返済による支出	△320,000
長期借入れによる収入	2,900,000
長期借入金の返済による支出	△3,905,000
配当金の支払額	△112,963
その他	△1,540
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,119,503
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,413
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△100,726
現金及び現金同等物の期首残高	1,449,081
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,348,355

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第 2 四半期会計期間 (自 平成 20 年 7 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第 2 四半期累計期間 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)

該当事項はありません。

【参考資料】

前中間損益計算書

(単位：千円)

区分	前中間会計期間 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日)	
	金額	百分比
		%
I 売上高	5,082,274	100.0
II 売上原価	3,918,654	77.1
売上総利益	1,163,620	22.9
III 販売費及び一般管理費	526,228	10.4
営業利益	637,391	12.5
IV 営業外収益	15,232	0.3
V 営業外費用	62,664	1.2
経常利益	589,959	11.6
VI 特別利益	4,729	0.1
貸倒引当金戻入益	4,729	
VII 特別損失	566	0.0
固定資産除却損	566	
税引前中間純利益	594,122	11.7
法人税、住民税及び事業税	226,502	4.5
法人税等調整額	△116,016	△2.3
中間純利益	483,636	9.5

前中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1 税引前中間純利益	594,122
2 減価償却費	84,740
3 貸倒引当金の減少額	△4,729
4 退職給付引当金の減少額	△8,752
5 役員退職慰労引当金の減少額	△253,089
6 受取利息及び受取配当金	△1,820
7 支払利息	35,044
8 支払手数料	3,548
9 有形固定資産除却損	566
10 売上債権の減少額	1,604,243
11 たな卸資産の増加額	△28,804
12 仕入債務の減少額	△1,315,658
13 長期未払金の増加額	254,169
14 その他	298
小計	963,878
15 利息及び配当金の受取額	1,820
16 利息の支払額	△34,746
17 手数料の支払額	△4,176
18 法人税等の支払額	△437,151
営業活動によるキャッシュ・フロー	489,624
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1 有形固定資産の取得による支出	△236,504
2 その他投資の取得による支出	△4,283
3 その他投資の売却による収入	16
4 短期貸付けによる支出	△450
5 短期貸付金の回収による収入	865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△240,355
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1 短期借入れによる収入	320,000
2 短期借入金の返済による支出	△320,000
3 長期借入れによる収入	2,190,000
4 長期借入金の返済による支出	△1,686,000
5 配当金の支払額	△191,811
6 その他	△4,687
財務活動によるキャッシュ・フロー	307,500
IV 現金及び現金同等物の増加額	556,769
V 現金及び現金同等物の期首残高	1,073,985
VI 現金及び現金同等物の中間期末残高	1,630,754

6. その他の情報

【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績を機種別に示すと、次のとおりであります。

機種	生産高(千円)
ラップ盤	3,770,517
ホブ盤	336,150
フライス盤	174,910
レンズ加工機	34,000
CMP・CMG	221,484
部品	921,710
歯車	25,096
合計	5,483,869

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績を機種別に示すと、次のとおりであります。

機種	受注高(千円)	受注残高(千円)
ラップ盤	2,557,038	1,806,440
ホブ盤	383,168	331,707
フライス盤	91,323	120,250
レンズ加工機	—	32,000
CMP・CMG	151,484	356,000
部品	923,362	361,300
歯車	19,196	6,100
合計	4,125,574	3,013,797

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績を機種別に示すと、次のとおりであります。

機種	販売高(千円)
ラップ盤	4,145,116
ホブ盤	336,150
フライス盤	196,910
レンズ加工機	34,000
CMP・CMG	221,484
部品	921,710
歯車	25,096
合計	5,880,467

- (注) 1 主な輸出先及び輸出販売高に対する割合は次のとおりであります。
()内の数値は総販売実績に対する輸出高の割合であります。

輸出先	当第 2 四半期累計期間	
	販売高 (千円)	割合 (%)
東南アジア	2,927,683	70.6
東アジア	1,089,517	26.3
その他	129,504	3.1
計	4,146,704 (70.5%)	100.0

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第 2 四半期累計期間	
	販売高 (千円)	割合 (%)
KONICA MINOLTA GLASS TECH(M) SDN. BHD.	1,617,417	27.5
HOYA GLASS DISK VIETNAM LTD.	1,070,536	18.2

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。